

平成 20 年 2 月 4 日

各 位

日 本 製 紙 連 合 会
広 報 部
(TEL 03-3248-4801)

第 2 回 古紙配合率問題検討委員会の概要について

2月1日（金）午前8時30分より、第2回 古紙配合率問題検討委員会を開催致しましたので、概要を以下のとおりご報告いたします。

冒頭、鈴木会長より、1月31日（木）に5社社長及び会長、理事長連名で公表した「古紙パルプ配合率未達の問題に対するお詫び（声明）」についての説明とともに、配合率が未達であった他社への参加要請があった。

1. 「古紙と環境検証委員会」設立について

環境と古紙利用の関係を業界外に平易な言葉で発信する必要であることに加え、再生紙の定義や表示のあり方、配合率の担保方法などを、第三者の観点から意見を聞いて検討することが重要であるとされた。それを受けて当会では、大学関係者、ジャーナリスト・消費者代表等の外部有識者と製紙業界関係者で構成する「古紙と環境検証委員会」を設けることとした。委員会メンバーは、現在の所、以下の通りである。

委員長	大江 礼三郎	東京農工大学名誉教授（林産学）
委 員	磯貝 明	東京大学教授（製紙科学）
〃	細田 衛士	慶應義塾大学教授（環境経済学）
〃	崎田 裕子	環境ジャーナリスト・環境カウンセラー
〃	篠原 良子	中央区環境保全ネットワーク代表
〃	大澤 純二	王子製紙(株)執行役員研究開発本部副本部長
〃	内藤 勉	日本製紙(株)参与環境安全部長
〃	中俣 恵一	北越製紙(株)技術開発部環境担当部長

2. 再生紙の定義、表示のあり方について

可及的すみやかな検討が必要との観点から、各社の意見交換を行った。古紙利用率の多寡によっていくつかの区分表示する案、古紙配合率を明示する案、誤解の多い再生紙という呼称を取り止めるという案、等の様々な案が出た。ただし、本問題は、古紙配合率の担保方法とも密接に関係するため、その検討状況を踏まえた上で再度検討することとなった。

3. 古紙配合率の担保方法について

古紙配合率を科学的に分析することは困難であるため、生産工程を検証して古紙配合率を担保することが必要との観点から、需要家などの様な点をチェックすることが必要か、日本製紙連合会技術環境部会技術委員会の技術小委員会において、チェックリストの原案を可及的すみやかに作成することとなった。原案は、「古紙と環境検証委員会」の意見も反映して、再度、古紙配合率問題検討委員会で審議し、結論を得る予定。

4. 次回は2月15日（金）に開催します。

(等)